

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成28年度事業)

平成29年8月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
(1)	教育委員会の会議の開催状況	2
(2)	教育長・委員の活動状況	4
(3)	教育長・委員の研修状況	4
4	点検・評価の対象事業	5

No.	分 野	事務・事業名	担当課等
1	学校教育	学校トイレ改修事業	教育総務課
2	学校教育	こころのプロジェクト「夢の教室」事業	教育指導課
3	生涯学習	市民大学教養講座「春の花めぐりとウォーキング」事業	生涯学習課
4	生涯学習	さけの郷土料理教室	花館公民館
5	芸術・文化	かみおか地域文化祭	神岡中央公民館
6	芸術・文化	にしせんぼく文化祭	西仙北中央公民館
7	生涯学習	児童書道作品表装体験教室開催事業	中仙公民館
8	芸術・文化	協和地域文化財防火訓練	協和公民館
9	学校教育 生涯学習	東日本大震災被災地（宮城県南三陸町）交流事業	南外公民館
10	生涯学習	子ども書道教室	仙北公民館
11	生涯学習	太田地域家庭教育学級	太田公民館
12	生涯学習	「だいせん読書の日」における読書活動の推進事業	総合図書館
13	芸術・文化	秋田おばこ節全国大会	総合市民会館
14	芸術・文化	角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業	文化財保護課
15	スポーツ	全国500歳野球プレ大会	スポーツ振興課

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、平成28年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画又は大仙市スポーツ推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、15事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、秋田大学教育文化学部 佐藤修司教授、社会教育委員 鈴木三郎氏、前大曲小学校校長 毛利博信氏の3氏から評価していただきました。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。

平成28年度は、定例会のほか臨時会を1回開催し、合計13回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
H28. 4. 25 (定例会) 大曲図書館	議案第19号 社会教育指導員の委嘱に関する臨時代理について 議案第20号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について 議案第21号 獎学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第22号 大仙市文化財の指定について
H28. 5. 30 (定例会) 大曲図書館	議案第23号 平成28年度大仙市一般会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について 議案第24号 平成28年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について 議案第25号 県費負担教職員の人事の内申に関する臨時代理について
H28. 6. 28 (定例会) 大曲図書館	議案第26号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱に関する臨時代理について 議案第27号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
H28. 7. 25 (定例会) 大曲図書館	議案第28号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第29号 教育支援専門検査員の委嘱について
H28. 8. 22 (定例会) 大曲図書館	議案第30号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について
H28. 9. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第31号 平成28年度大仙市一般会計補正予算（第3号）案に関する臨時代理について 議案第32号 平成28年度大仙市一般会計補正予算（第4号）案に関する臨時代理について 議案第33号 大仙市文化財の指定について
H28. 10. 17 (定例会) 仙北ふれあい文化センター	議案なし（報告案件のみ）
H28. 11. 25 (定例会) 大曲図書館	議案第34号 大仙市八乙女交流センターの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第35号 大仙市営八乙女球場及び大仙市八乙女運動公園テニスコートの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第36号 平成28年度大仙市一般会計補正予算（第6号）案に関する臨時代理について 議案第37号 平成28年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について

	議案第38号 平成28年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について
H28.12.22 (定例会) 大曲図書館	議案第39号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について
H29.1.17 (定例会) 大曲図書館	議案第1号 大仙市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定に関する臨時代理について 議案第2号 大仙市学校給食センター学校栄養職員の服務に関する規則の制定に関する臨時代理について 議案第3号 大仙市学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定に関する臨時代理について
H29.2.23 (定例会) 大曲図書館	議案第4号 平成28年度大仙市一般会計補正予算（第9号）案に関する臨時代理について 議案第5号 平成28年度大仙市奨学資金特別会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について 議案第6号 平成29年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第7号 平成29年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第8号 平成29年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第9号 平成29年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理について
H29.2.27 (臨時会) 大曲図書館	議案第10号 県費負担教職員の人事の内申について
H29.3.23 (定例会) 大曲図書館	議案第11号 大仙市教育委員会事務局等処務規則の制定について 議案第12号 大仙市招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について 議案第13号 大仙市教育アドバイザー設置規則の一部を改正する規則の制定について 議案第14号 大仙市立図書館の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第15号 大仙市学校教育関係補助金交付要綱を廃止する要綱の制定について 議案第16号 教育アドバイザーの任命について 議案第17号 教育アドバイザーの任命について 議案第18号 社会教育指導員の委嘱について 議案第19号 大仙市市民会館等運営連絡協議会委員の委嘱について 議案第20号 大仙市市民会館等運営連絡協議会専門委員会委員の委嘱について 議案第21号 大仙市文化財保護審議会委員の任命について

※ 議案番号は、暦年による一連番号です。

※ 10月の定例会は、移動教育委員会として開催しました。

(2) 教育長・委員の活動状況

入学式 平成28年4月 6日から4月 8日まで 小学校21校、中学校11校 全32校
公民館訪問 平成28年4月14日・19日 市内8公民館
学校訪問 平成28年5月23日から7月 5日まで 小学校21校、中学校11校 全32校
卒業式 平成29年3月11日から3月16日まで 小学校21校、中学校11校 全32校

(3) 教育長・委員の研修状況

平成28年 5月26日 平成28年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議（第1回）
教育長及び風登委員が出席
平成28年 7月15日 平成28年度東北六県市町村教育委員会連合会教育委員会・教育長研修会
教育長及び風登委員が出席
平成28年10月17日 高梨神社及び旧池田氏庭園払田分家庭園視察
教育長及び全委員が出席
平成28年11月18日 平成28年度全県市町村教育委員会委員長・教育長会議（第2回）
風登委員が出席
平成28年11月21日 平成28年度大仙仙北美郷教育委員会連絡会
教育長、風登委員、竹原委員及び工藤委員が出席

事務事業の点検・評価表

番号	1	分野	学校教育	担当課	教育総務課																				
事業名	学校トイレ改修事業																								
事業の目的	学校施設の老朽化が課題となっている中、特に学校トイレについては和式や湿式が多く整備が遅れていることから、計画的に洋式化などの改修を行い、快適な教育環境を整えることを目的とする。																								
事業の実施状況	事業費	82,820千円																							
	<p>大曲小学校と太田中学校のトイレ改修を次のとおり行った。</p> <p>1 改修内容 ・ 便器の洋式化、内装のリフォーム、配管の交換</p> <p>2 事業費の内訳</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>(1) 工事費</td><td style="text-align: right;">77, 672千円</td></tr> <tr><td>(2) 工事監理委託料</td><td style="text-align: right;">2, 038千円</td></tr> <tr><td>(3) 実施設計業務委託料</td><td style="text-align: right;">3, 110千円</td></tr> <tr><td>合 計</td><td style="text-align: right;">82, 820千円</td></tr> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; width: fit-content; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><th colspan="4">トイレ改修の実績</th></tr> <tr><th></th><th style="text-align: center;">26年度</th><th style="text-align: center;">27年度</th><th style="text-align: center;">28年度</th></tr> <tr><td>学校数</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">2</td></tr> </table>					(1) 工事費	77, 672千円	(2) 工事監理委託料	2, 038千円	(3) 実施設計業務委託料	3, 110千円	合 計	82, 820千円	トイレ改修の実績					26年度	27年度	28年度	学校数	2	1	2
(1) 工事費	77, 672千円																								
(2) 工事監理委託料	2, 038千円																								
(3) 実施設計業務委託料	3, 110千円																								
合 計	82, 820千円																								
トイレ改修の実績																									
	26年度	27年度	28年度																						
学校数	2	1	2																						
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																								
課題等	学校トイレの改修を行うことにより、快適な教育環境の向上を図ることができた。学校トイレの改修については、特に現場からの要望順位も高いものがあり、完成後の満足度も高い。また、屋内運動場が有事の際に避難所となった場合を考慮すると、高齢者向けに便器の洋式化などを促進する必要がある。今後も、学校トイレの改修を進めていく。																								
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 洋式化等の各種改修は急務であり、スピードを上げて早急に全ての学校で実現していただきたい。避難所となる可能性があることを考えれば、子どもたちだけではなく、高齢者、障害者などを含めた住民全員にとっての危機管理上の優先事項と思われる。 ◇ 各学校施設は大震災後に耐震化工事が進められ、有事の際には一般市民が利用する避難所施設としての役割を果たすとともに、避難所開設訓練を実施できる場所として地域にとって大事な施設でもあります。こうした現状から快適な教育環境を整えるためにも、トイレの洋式化改修工事が早期に進められなければなりません。補助事業との関係から、29年度以降は残り26校を33年度で完了する計画でしたが、補助金に頼らずとも、市単独の前倒し事業として進めるべきではないかと思われます。 □ 学校のトイレ環境が児童・生徒の学校生活に与える影響は、決して小さくない。何らかの理由で肢体に不自由がある子どもにとって、洋式トイレは学校生活に不可欠である。加えて、好ましくない環境が、「いたずら」や、高じて「いじめ」の原因となった事例もあった。学校で安心してトイレに行けないことが、登校渋りの原因となったことも報告されている。大きな経費を伴う事業であるが、事業期間をできる限り短縮できるよう、予算確保に一層尽力いただきたい。 																								

事務事業の点検・評価表

番号	2	分野	学校教育	担当課	教育指導課				
事業名	こころのプロジェクト「夢の教室」事業								
事業の目的	プロスポーツ選手や芸術家などの著名人を招いて、一緒にスポーツをしたり、芸術家の技や演奏を実際に見たり聴いたり、講話を聞くことで、子どもたちが夢をもつことの素晴らしさや、努力することの大切さを知り、自分の夢の実現に向かっていこうとする気持ちを育てることを目的とする。								
	事業費	1, 672千円							
	<p>(スポーツ) 日本サッカー協会から4人の講師を依頼し、実技と講話を2時間(単位)実施 小学5年生、中学1、2年生主体で、5月10日(火)大川西根小学校、高梨小学校、5月11日(水)西仙北中学校、5月12日(木)南外中学校、南外小学校、5月13日(金)豊川小学校、豊岡小学校、太田北小学校(H27実施校:四ツ屋小、太田東小、太田南小、協和中) (H26実施校:東大曲小、大川西根小、西仙北小、協和中)</p> <p>(絵画) 画家の小山内愛美氏(男鹿市在住)を招き、トークと工作活動を2時間(単位)実施 小学5年生主体で、7月13日(水)花館小学校、神岡小学校、7月20日(水)太田東小学校、太田南小学校(H27実施校:東大曲小、大川西根小、角間川小、高梨小) (H26実施校:大曲小、神岡小、清水小、南外小)</p> <p>(音楽) チェリストの羽川真介氏(秋田市出身)を招き、演奏とトークで1時間程度実施 小学5年生主体で、11月16日(水)横堀小学校、中仙小学校、11月17日(木)大曲小学校、角間川小学校(H27実施校:西仙北小、豊川小、豊岡小、協和小、南外小) (H26実施校:四ツ屋小、豊川小、豊岡小、高梨小、横堀小)</p> <p>(音楽) ピアニストの佐藤草史氏(秋田市出身)を招き、トークとコンサートで1時間半程度実施 中学1年生主体で、10月20日(木)西仙北中学校、協和中学校(H27実施校:大曲中、大曲西中、大曲南中、平和中、南外中) (H26実施校:市内中学1年生)</p>								
事業の実施状況	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>プロスポーツ選手や芸術家などの著名人と一緒にスポーツをしたり、演奏を実際に見たり聴いたり、講話を聴いたりすることで、子どもたちが夢をもち、夢に向かって粘り強く努力する気持ちが育まれ、キャリア教育の視点からも有意義であり、事業を継続して実施していく必要がある。</p>								
課題等	学校側の実施希望にはばらつきがあり、講師の依頼時期によって調整が難しい場合がある。								
外部評価	<p>○ できる限り、全ての学校において希望を生かしながら今後とも継続的に実施していただきたい。全校において音楽、美術、体育が3年サイクルなどで一通り体験できることが望ましい。全国的に有名な人ばかりではなく、東北、県、市レベルで活躍している人材をもっと活用してもよいように感じる。</p> <p>◇ 市の単独事業として毎年度開催されてきたところですが、芸術文化スポーツ関係などの著名人を招いての実技指導や演奏・講話を直接見たり聞いたりすることで、子供たちが夢を持ち夢に向かっていくきっかけにつながっていく事業と思われます。毎年度予算確保が難しくなってくるようですが、各学校からの要望を充分に把握しながら、各分野の講師の選定範囲にも工夫をこらしながら実績を積み上げてもらいたいものです。教育現場の要望・反響が市民に知れわたることにより、これまで以上の予算の確保と事業の継続が見込まれると思います。他にも教育事業として「コロンブスの卵わくわくサイエンス事業」がありますが、これも毎年度創意工夫を取り入れることにより更なる発展が期待できると思われ、関係者の一層のご奮闘をお願い申し上げます。</p> <p>□ 子どもたちの夢を育むことのできる、魅力ある講師の確保や発掘が難儀であろうことは、十分理解できる。しかし、自分の夢の実現に向かって努力できる子どもを育てることは、学校教育の究極目標の一つである。学校からの希望を受けることに加え、市役所各課・各支所・公民館、マスコミ機関、商工会関係等に情報収集ネットワークを広げ、子どもたちの発達段階に応じて事業の目的を達成できる講師の獲得を強く望む。</p>								
有識者の意見・評価									

事務事業の点検・評価表

番号	3	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課
----	---	----	------	-----	-------

事業名	市民大学教養講座「春の花めぐりとウォーキング」事業																				
事業の目的	地域課題を探り、地域資源について学ぶ「地元学」の学習機会を提供していく上で、市民や団体が講師を務める「市民大学教養講座」を開催し、「知の循環型社会」の実現を目指す。																				
事業費	0千円																				
事業の実施状況	<p>様々な地域資源のうち、市民大学教養講座では「大仙自然保護の会」との共催により、原生植物や野鳥観察など自然環境に関する講座のほか、地域の歴史に焦点を当てた内容で開催した。講座では、会の代表を中心に普段あまり訪れる機会がない場所を設定し、ボランティアによる現地調査や下見を実施し、安全面に細心の注意を払った。当日は参加者の方と実際に現地を訪れウォーキングを楽しみながら、幅広く関心を持っていただける内容で開催した。</p> <p>平成28年度は羽黒山など神岡地域近隣で実施する計画で募集したところ、募集定員の30人を上回る申込みがあり、キャンセル待ちが出る程であった。当日は、大仙自然保護の会のガイドボランティアを含む全43人の参加で実施した。当日実施したアンケートによれば、参加者からは100%に近い満足度が得られたなどの感想が寄せられ、隠れた名所の魅力をPRする上で大きな成果が上げられた。</p> <p>また、今回も少人数にグループ分けをし、それぞれに案内人を随行させ実施したところ、大人数で一方的な説明を聞きながら回る事業に比べ、懇切丁寧な説明を受けることができたと非常に好評であった。今後も案内人の確保ができる限り、このような少人数編成の研修が望ましいように思われる。</p> <p>実施日時：平成28年5月10日（火）8:45～16:10 参加人数：一般30人、会員8人、職員5人 実施場所：神岡地域近隣</p> <p>(実施内容)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">8:45 集合・日程説明 (9:00出発)</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>9:25 羽黒山登り口着・準備運動等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9:45 「軽登山」(登り口～三十三番観音～三峰山)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11:50 移動・昼食（～13:00）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13:00 ウォーキング（野草観察・解説）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13:30 バス移動・大浦沼ウォーキング（野鳥観察）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15:05 笹倉公園着・ウォーキング（自由散策）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16:10 市民会館着・終わりの会・解散</td> <td></td> </tr> </table> <p>【平成26年度実績】 実施日時：平成26年5月8日（木）8:45～16:30 参加人数：一般27人、会員18人、職員5人 実施場所：南外地域、西仙北地域、協和地域</p> <p>【平成27年度実績】 実施日時：平成27年5月8日（金）8:45～17:00 参加人数：一般35人、会員8人、職員5人 実施場所：中仙地域、太田地域</p>					8:45 集合・日程説明 (9:00出発)		9:25 羽黒山登り口着・準備運動等		9:45 「軽登山」(登り口～三十三番観音～三峰山)		11:50 移動・昼食（～13:00）		13:00 ウォーキング（野草観察・解説）		13:30 バス移動・大浦沼ウォーキング（野鳥観察）		15:05 笹倉公園着・ウォーキング（自由散策）		16:10 市民会館着・終わりの会・解散	
8:45 集合・日程説明 (9:00出発)																					
9:25 羽黒山登り口着・準備運動等																					
9:45 「軽登山」(登り口～三十三番観音～三峰山)																					
11:50 移動・昼食（～13:00）																					
13:00 ウォーキング（野草観察・解説）																					
13:30 バス移動・大浦沼ウォーキング（野鳥観察）																					
15:05 笹倉公園着・ウォーキング（自由散策）																					
16:10 市民会館着・終わりの会・解散																					
自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>今年度も新しいコースを設定し、大仙市西部地域で実施することができた。 今後も、市内の様々な地域資源について学ぶことができる「地元学」の学習機会を提供していく上で、講師役の市民団体と協議し改善を加えながら、更なる学習内容の向上を図っていく。 また、これまで学習者の立場であった市民や団体が講師を務める「行動人」として今後も一層地域の学習活動に参画していただくことにより、地域全体の生涯学習振興が図られていくように継続実施していく。</p>																				
課題等	<p>現在、大仙自然保護の会の全面的な協力の下、「山野草・野鳥・歴史」などの地域資源について、参加住民が学びを深められる内容で市民大学という位置付けで開催しているが、今後はそれ以外の学習分野についても幅広く学びを深められるようなプログラムの開発が課題である。 そのため、現在、市から県サイトへ登録されている「行動人」との連携を深め、実現に向け検討していく。</p>																				
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ よい企画であり、ぜひ継続的に実施していただきたい。年度により実施場所を変えながら、全市をカバーできるように取り組んでいただきたい。学校、市役所等も含めた職員研修としても別個に開催してもいいように思う。</p> <p>◇ 市と市民団体との共催により実施された同事業は、ゼロ予算事業として継続して行われてきました。予算を伴わざとも、市民団体の協力を得ることにより市民に喜ばれる事業であったと思われます。こうした共同事業は自然や歴史、里山登山等々ふるさと再発見シリーズとして分野を広げた事業が展開できるものと思われます。</p> <p>□ 今後も継続いただきたい、優れた事業である。大仙市の優れた文化や豊かな自然に触れる「地元学」による生涯学習振興という観点に加え、大仙市民であることを喜び合うオール大仙的郷土愛を醸成していただきたい。8市町村合併による大仙市誕生から、12年が経過した。しかし、諸会合の折など未だに旧市町村への無用のこだわりが感じられることがある。このような事業を継続発展させることで、また若い世代の参画を促すことで、市全体の発展を願う市民が育ち、活性を支えてくれると考える。一層の充実を期待申し上げたい。</p>																				

事務事業の点検・評価表

番号	4	分野	生涯学習	担当課	花館公民館
事業名	さけの郷土料理教室				
事業の目的	さけの郷土料理をとおして、花館の歴史や食文化に関心を持ち、豊かな自然や恵みに感謝し、伝統文化の継承につなげる。				
事業の実施状況	事業費		24千円		
	①開催日 平成28年11月19日(火)10:00~13:00 平成28年12月 2日(金)10:00~13:00	②参加者 1日目・20人 2日目・17人・公民館職員3人・講師1人	③内 容 花館地区限定でチラシにより、料理教室の募集をし、2日間にわたり、花館とさけの歴史、さけの捌き方、さけの色々な調理方法を学ぶ。 雄物川鮭増殖漁業組合へ講師の派遣とさけの提供を依頼する。	④調 理 さけのしょうゆ漬け焼き・フライ・ざっぱ汁・ひ頭なます・ルイベ等	
	平成25年度開催状況 開催日:11月15日(30人) 11月19日(30人)	平成26年度開催状況 開催日:11月20日(16人) ☆花館小学校保護者	平成27年度開催状況 開催日:11月 9日(19人) 12月20日(19人) 1月20日(15人)		
	調理 フライ・焼きさけ ルイベ	調理 フライ・焼きさけ ルイベ	調理 紅葉漬け・焼きさけ ルイベ		
	☆参加者全員に捌いたさけのほか、もう1匹さけが提供される。				
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> 長年、さけ増殖漁業に携わっている講師の絶妙なトークにより、参加者は花館の歴史・花館の人とのさけに対する思いを楽しく学ぶことができた。また、川を遡上してきたさけの美味しい食べ方として色々な郷土料理も学ぶことができた。 ほとんどの参加者が生のさけを捌くのは初めてだったが、講師の丁寧な指導により、参加者が協力して3枚におろし、切り身にすることができた。調理後は参加者全員で試食し、さけの美味しさを堪能していた。 事業終了後に実施したアンケートには「さけのすしや紅葉漬けを教えてほしい」「さけの大きさに驚いた」「家に帰ってさけ料理を作つてあげた」「さけ料理を自慢することができた」等、来年につながる回答をたくさんいただくことができた。 				
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今後は大人だけを対象とした料理教室ではなく、PTAとの連携により親と子の料理教室を開催し、次の世代へ継承していきたい。 				
外部評価 有識者の意見・評価	<input type="checkbox"/> 花館地区以外の住民にも対象を広げるか、また、花館地区の中で、学校、子ども、親など、異世代交流・継承を目指すか、検討していただき、今後も継続的に取り組んでいただきたい。 <input type="checkbox"/> 花館の鮭養殖事業は100年を超える、県内一古い歴史を紡いできました。長年続けられてきた子どもたちによる稚魚の放流は、地元の川と魚の自然、養殖事業を理解してもらう良い機会です。また、鮭を利用した食文化にも触れるができるなど、地域住民参加型の企画は今後も続けてほしいものです。玉川、雄物川周辺には、鮭にまつわる様々な自然環境が存在しています。県内でもここにしかない貴重な環境を市民に理解していただくためにも、地元町内会、組合、PTAなどと連携で事業計画を立て、養殖事業の継続発展につなげてもらいたいところです。 <input type="checkbox"/> PTAとの連携による「親と子の料理教室」開催に賛成である。地域の伝統や文化を次代に継承するだけでなく、学校教育で取扱いが難しい“自他の生命の尊重”においても、有意義な教材である。食事は、他の生命を「いただく」ことであることを、生きた体験として学ぶことができる。また、第1回評価委員会で話題となったように、外洋から遡上した鮭と、それをシベリアから追いかけてきたオジロワシとが接触する、まさに地球規模的で貴重な教材が存在している地域もある。学習成果を、是非広く発信していただきたい。				

事務事業の点検・評価表

番号	5	分野	芸術・文化	担当課	神岡中央公民館																							
事業名	かみおか地域文化祭																											
事業の目的	神岡地域の芸術文化団体や小中学校、幼稚園などが一堂に会し、作品展示や舞台発表等を通して住民の交流促進と地域活性化を図りながら、芸術文化の振興や関係団体の連携強化を推進する。																											
事業の実施状況	事業費	445千円																										
	1 開催期日 2 開催場所 3 実施内容	平成28年10月15日(土)・16日(日) かみおか嶽雄館・神岡体育館・嶽ドーム・農村環境改善センター 作品展示及び舞台発表(芸文協・公民館講座・各種サークル・小中学校・幼稚園) 付帯イベント(消防車両展示・大農郷土芸能部・フライングディスク大会・青空おはなし会・ふるさと民謡めぐり・地元農産物の直売・全国500歳野球大会PR用DVD完成披露イベント)																										
	【3か年の状況】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 30%; text-align: center;">作品展示</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">舞台発表</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○平成26年度</td> <td style="text-align: center;">21団体</td> <td style="text-align: center;">615人</td> <td style="text-align: center;">20団体</td> <td style="text-align: center;">238人</td> <td style="text-align: center;">1, 600人</td> </tr> <tr> <td>○平成27年度</td> <td style="text-align: center;">21団体</td> <td style="text-align: center;">570人</td> <td style="text-align: center;">21団体</td> <td style="text-align: center;">301人</td> <td style="text-align: center;">1, 900人</td> </tr> <tr> <td>○平成28年度</td> <td style="text-align: center;">20団体</td> <td style="text-align: center;">546人</td> <td style="text-align: center;">18団体</td> <td style="text-align: center;">261人</td> <td style="text-align: center;">2, 200人</td> </tr> </tbody> </table>							作品展示	舞台発表	入場者数	○平成26年度	21団体	615人	20団体	238人	1, 600人	○平成27年度	21団体	570人	21団体	301人	1, 900人	○平成28年度	20団体	546人	18団体	261人	2, 200人
	作品展示	舞台発表	入場者数																									
○平成26年度	21団体	615人	20団体	238人	1, 600人																							
○平成27年度	21団体	570人	21団体	301人	1, 900人																							
○平成28年度	20団体	546人	18団体	261人	2, 200人																							
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった ・地域文化祭は、数少ない学習成果の発表機会になっており、芸文協の会員や公民館事業の生涯学習講座の受講者の学習活動の励みになっている。 ・小中学校や認定こども園の作品展示や舞台発表を取り入れることで、地域と学校、園との連携が強化されると共に、高齢者にとって子どもたちとの交流が図られる絶好の機会として喜ばれている。 ・地域内で活動している様々な分野の作品展示や舞台発表などを通して芸術文化団体の相互交流や芸術文化の振興が図られている。 ・全国500歳野球大会PR用DVD完成披露イベントや大曲農業高校郷土芸能部など魅力あるイベントを組み込むことで集客につながった。 ・地域文化祭が、地域住民の文化や産業の交流の場として大きな役割を果たし、地域活性化イベントの一つになっている。																											
課題等	・少子高齢化の進展に伴う児童生徒の減少や芸術文化団体の会員数の減少により参加者が減少傾向にある。 ・例年の催しに加え、いかに魅力ある付帯イベントを開催するかが期間中の集客を大きく左右することから、市民に喜ばれるイベントを企画することが大変重要である。																											
外部評価 有識者の意見・評価	○ 参加者数も増えており、成果を挙げている。世代間の交流の場ともなっており、地域づくりにも大きく貢献している。毎年度、何らかのイベント等を組み合わせることで、集客を維持していくように取り組んでいただきたい。 ◇ 每年秋ごろを中心に行われる文化祭は、ほかの地域でも行われているのが現状です。各団体の1年間の学習成果の発表会になっていることと、認定こども園、小・中学校の作品展示・舞台発表の場にもなっています。例年の催しに加え、その年だけのイベント開催が集客数を左右することになるようです。地元市民に喜ばれるためには、他地域で開催されている行事の発表交流を行うことができないか、ご検討をお願いしたいところです。 □ 少子高齢化に伴い、参加者や観覧入場者が減少することは、やむを得ないことである。500歳野球や祭典、神岡南外花火大会など、多くの人々が集まる行事も神岡地域にはあるが、本事業は、地域が一体となることのできる貴重な機会を提供している。魅力ある付帯イベントの工夫も是非お願いしたいが、事業の目的を大切にした継続こそ大事であると捉える。各分野の優れた芸術文化が根付いている地域であり、本事業の果たしている役割の大きさは、参加人数では評価することができない。																											

事務事業の点検・評価表

番号	6	分野	芸術・文化	担当課	西仙北中央公民館
事業名	にせんぼく文化祭				
事業の目的	西仙北地域住民の芸術文化活動の発表と鑑賞の機会を広く提供することにより、文化の薫り高いまちづくりの創造や異世代のコミュニケーションを図ることを目的とする。				
事業の実施状況	事業費	126千円			
	<p>毎年10月末に生花展、菊花展やお茶会の開催のほか創作作品の展示や芸能発表など、芸術文化協会会員や一般愛好者が一年間取り組んだ成果を披露した。また、協賛行事としてJA秋田おばこなどによる直売会も開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公民館利用団体と地域住民のステージ発表と作品展示を行う。 (芸術文化協会の発表及び幼児・児童・生徒の絵画、書道、短歌等) ○菊花展示会(表彰伝達式) ○短歌大会(講師による講話、表彰式等) ○お茶会(高校茶道部・小中学生を招待) ○協賛行事 <ul style="list-style-type: none"> ・出庫市(商工会)・野菜直売会(JA秋田おばこ)・秋の収穫祭(美食づくり実行委員会) ○図書館まつり(読み聞かせコーナー、リサイクル市等) ◆平成26年度延べ来場者数 2,200人 ◆平成27年度延べ来場者数 2,000人 ◆平成28年度延べ来場者数 1,800人 				
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった		
	<p>年々延べ来場者数は減少傾向にあるが、地域住民の発表と鑑賞の場として定着しているし、異世代間のコミュニケーションを図る絶好の機会となっている。文化祭は、小中高・芸文協・商工会・農協関係者の方々の協力で行っており、地元の農産加工品等の販売を行なうなど、地域の活性化も図ることができた。これからは、小中高との継続的な連携を図るとともに、地域とのつながりを大事にし、更には事業に工夫を凝らしながら来客数増加に努め、大きな成果を上げたい。</p>				
課題等	<p>地域には本館のほか3地区の地区公民館があり、実行委員会組織を立ち上げ、地域枠予算を充てて地区館まつりを盛会に行っている。むしろ、基幹公民館の中央公民館より盛大で住民の関心は高いが、事業内容はそれほど変わりはない。本館を含めて4か所で実施するため参加住民が分散する傾向にあり基幹公民館である中央公民館としては、いろいろな方策を練って、来場者の集客を図りたい。時には地区公民館と連携を図りながら、共同で開催するなどの変化を持たせたい。単に予算をかけて盛大な事業にするのではなく、地域の特色を出し地域力を生かし、地域のお祭りとして意識の定着を目指す。公民館が地域の「核」となってつながりを大事に事業の充実を図っていく必要がある。</p>				
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区公民館が主催する地区館まつりが盛大であることは歓迎すべきことであるが、中央公民館の文化祭と、時期や内容などの棲み分けをはかり、双方がからみあって地域を盛り上げていけるようにしてほしい。にせんぼく文化祭が、地区館まつりの代表企画を取り込んだり、西仙北全体の企画に特化したり、西仙北以外の他地域との交流の場にするなど、工夫していただきたい。 ◇ この行事は本館を含め4館で同じ時期に開催されていることから、来場者数が分散、減少傾向にあるようです。三つの地区公民館では実行委員会を立ち上げ地域枠予算を充てるなど、本館よりも盛大に行っています。開催される事業内容がどこもさほど変わらないことから、本館まで出かけて行く参加者が減少しているものと思われます。地区公民館の開催時期と本館の開催時期に間を置き、ずらすことなどはできないでしょうか。長年続いてきた行事で住民には戸惑いもあるでしょうが、このまま続けることで先細りする前に何らかの対策が必要かと思われます。 				
有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> □ 3地区の地区館まつりを大切にしながらも、基幹公民館としての文化祭も一層盛り上げなければとの思いに共感する。是非、地区内全公民館・幼保・小・中学校、各地区代表等との話し合いの機会を持つていただきたい。その中で、地域住民による芸能発表や農産加工品販売等の共通内容に加えて、各地区で何を特色としていくべきかが見えてくるのではないかと推察する。 <p>また、小・中学校等の教育機関は、地域の明日を担う人間を育成していくという使命を負っている。遠慮することなく学校を巻き込み、異世代コミュニケーションを深めていただきたい。</p>				

事務事業の点検・評価表

	番号	7	分野	生涯学習	担当課	中仙公民館			
事業名	児童書道作品表装体験教室開催事業								
事業の目的	中仙地域の小学6年生を対象に、学社連携の下、児童自らが作成した書道作品を裏打ち表装し、記念として永く保存する。また、この体験を通じて書道や水墨画への親近感を持ち、併せて理解を深めることを目的とする。								
事業の実施状況	事業費	189千円							
	<ul style="list-style-type: none"> ・中仙地域内4小学校の6年生の児童を対象に、中仙表装俱楽部員及び協力員がそれぞれの学校に出向き指導し、児童自ら表装を行う。 ・作品は、中仙芸術文化祭で展示した後、卒業記念品とする。 ・各学校へ趣旨説明 → 下準備から最終作業までの事前研修 → 学校へ出向き教室を開催 <p>平成26年度 対象児童数 112人 指導者等 延べ58人 平成27年度 対象児童数 83人 指導者等 延べ56人 平成28年度 対象児童数 62人 指導者等 延べ50人</p> <p>※中仙地域枠予算事業(講師料は、ボランティアで無料)</p>								
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった					
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、各作成段階において達成感を得、喜びを体験できている。 ・学校の教室で行う事業であり、10年を迎える事業なので、今後も継続事業として取り組んでいきたい。 								
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・年々児童が減少傾向にある。 ・表装俱楽部の支援により、毎年開催できる事業である。28年末に中仙地域内の指導者が亡くなり指導者の後継者確保が厳しく、次年度からは、地域外から指導者を招聘し開催する予定。 ・生涯学習奨励員が主となる学社連携事業であるが、今後のことを考えれば指導者に応じたジャンルを考えなければならない時期かと考える。 								
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 児童数の減少は致し方のないところであるが、できる限り継続して取り組んでいただきたい。指導者が確保できなければ、別ジャンルの取組も検討していただきたい。</p> <p>△ 小学校6年生を対象に児童自らが作成した書道作品を、表装俱楽部員の指導の下に表装裏打ちして3月の卒業記念品として受け取った子供たちは、6年間の思い出として大切に保存していることでしょう。10年以上続いてきたが、俱楽部の指導者である会長が亡くなり、このまま続けることが難しくなっています。これまでの実績から見ても、所期の目的は達成され一定の成果があったと思われます。この事業を続けることが困難と思われる所以、別の方法を検討すべきと考えます。</p> <p>□ 指導者に応じて作製ジャンルを変更することに、基本的には賛成である。本事業で大切なことは、書道や水墨画への親近感を育み理解を深めることよりも、地域の大人と力を合わせて作品を製作し、それが子どもの手元に永く残るところにあるのではないかと考える。自分が子どもの頃の作品を、大人になっても保有していることはまれであるが、その作品を見たとき、子どもの頃を思い出し、改めて地域や地域の人々に感謝の気持ちを持つことは素晴らしいことである。</p>								

事務事業の点検・評価表

番号	8	分野	芸術・文化	担当課	協和公民館				
事 業 名	協和地域文化財防火訓練								
事業の目的	県指定有形文化財となっている唐松神社奥殿・杉並木・獅子頭など、貴重な文化財を災害から保護することと防火の呼びかけをし、地域住民の文化財愛護に関する意識の高揚を図ることを目的とする。								
事業費	44千円								
事 業 の 実施状況	<p>秋の火災予防運動期間中に県指定有形文化財である「唐松神社奥殿」を対象に、大曲消防署協和分署をはじめ、大仙市消防団協和支団・唐松神社自衛消防隊・敬神婦人会など、地域の関係各団体との連携を図り、文化財防火訓練を実施している。</p> <p>また、小学3年生で「地域の文化財」を学び、4年生で「防災」について学習していることから、授業の一環として協和小学校の4年生にも参加協力をいただき、これを後世に伝えて文化財の保護と防火意識を高めていくことを目指している。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">参加者数</td> <td style="width: 25%;">平成26年 127人</td> <td style="width: 25%;">平成27年 122人</td> <td style="width: 25%;">平成28年 124人</td> </tr> </table>					参加者数	平成26年 127人	平成27年 122人	平成28年 124人
参加者数	平成26年 127人	平成27年 122人	平成28年 124人						
自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/>順調に達成した <input type="checkbox"/>達成したが課題があった</p> <p><input type="checkbox"/>おおむね達成した <input type="checkbox"/>達成できなかった</p> <p>唐松神社を対象として文化財防火訓練を実施して25年になるが、少ない予算の中で継続実施し、事業の定着は図られている。</p> <p>この唐松神社は子授かり・安産・子育ての神として県内外から広く崇められ、多くの文化遺産が残されているため、今後も小学生の参加協力の下、貴重な文化財を次世代に引き継いでいくよう努めていきたい。</p>								
課 題 等	秋の火災予防運動期間中の実施は冬季と異なり、場所的にも余裕があるため参加者の安全確保は十分できるが、平日の開催であることから、地元消防団や自衛消防隊などの参加協力も厳しくなってきていているため、今後も綿密な協議が大切となる。								
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校での事前事後学習と結びつけたり、当日の消火活動に加えて、神社の施設説明、防火・防災体制の紹介を行ったりするなど、付加的な部分を工夫していただきたい。地元消防団や自衛消防隊、敬神婦人会との交流も考えられる。 ◇ 県指定有形文化財「唐松神社奥殿」を対象として行われてきた文化財防火訓練は25年間続けられてきました。毎年同じことの繰り返しの地味な事業ですが、継続は力なりで地元住民の防災の関心も高まっていると考えられます。万が一のときには被害を最小限に食い止め、未然に防止することもできましょう。消防分署、消防団、唐松神社、地域の各団体との連携協力により、小学4年生の防災学習にも役立っています。途切れることなく続けてください。 □ 唐松神社での文化財防火訓練が、25年も継続されていることにまずもって敬意を表したい。学校の指導現場では、「体験が大事なのではなく、その体験から何を学ばせるかを明確にすることが大事」とよく言われる。本事業に参加することで児童に伝えたいこと、協力してくださる地域の皆様にお願いしたいことを一層明確にし、事業を組み立てていただきたい。唐松神社の文化財的な価値は、おそらく県指定レベルにとどまらないと思われる。それを守るために、地域の一員として何をすべきかを考えることは、ふるさとを愛し地域を大切にしようとする心の育成へつながる。 								

事務事業の点検・評価表

番号	9	分野	学校教育 生涯学習	担当課	南外公民館				
事 業 名	東日本大震災被災地(宮城県南三陸町)交流事業								
事業の目的	小・中学生や保護者、地域住民が東日本大震災で被災した南三陸町を訪れ、その状況を直接体感することにより自然災害の恐ろしさを学び、災害から命を守るために防災意識を高める。 また、志津川小・中学校や仮設住宅住人との交流を通して、他を思いやる心や態度を醸成し、ふるさと南外を見つめ直す機会にするとともに、ふるさとに感謝し、更に貢献しようとする気運を高める。								
事 業 の 実施状況	事業費								
471千円									
<p>【南三陸町での交流】</p> <p>◇実施日時 平成28年10月20日(木)・21日(金)</p> <p>◇場 所 南三陸町仮設住宅集会所前広場、さんさん商店街</p> <p>◇交流内容 •さんさん商店街での南外産の新米、野菜、加工品の販売 (南外産そば粉を使った打立てそばの試食) •志津川小学校へ新米、志津川中学校へ義援金、メッセージの贈呈 •炊き出し体験として、仮設住宅住人へ「きりたんぽ鍋」「新米おにぎり」の提供 •「南中ソーラン」「南外小唄」の披露</p> <p>◇参加者数 中学生、教職員、南外地域住民、支所・公民館職員 118人 ※平成26年度 100人 平成27年度 115人</p> <p>【南外地域祭での交流】</p> <p>◇実施日時 平成28年10月16日(日)</p> <p>◇場 所 南外コミュニティセンター駐車場(南外地域祭会場)</p> <p>◇交流内容 南三陸町の海産物販売(中学3年生が販売に協力)</p>									
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した	<input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> 達成できなかつた					
<p>中学生と一緒にになった交流活動は楽しいし学ぶことも多く、何といっても元気をもらえる。中学生が作る新米のおにぎり、きりたんぽ鍋、それを食べて笑顔になり「よさこいソーラン」や「南外小唄」の踊りを見て拍手しながら喜び合う仮設住宅の方々、南三陸に来てよかつたなど感じる瞬間である。</p> <p>平成27年からは新たな試みとして物産交流も行なうようになった。南外の直売所とそばの会の協力で、仮設商店街で南外の新米、新鮮野菜などの販売、打ち立てそばの試食も行っている。また、南外の「地域祭」には仮設住宅の自治会長(鮮魚店経営)を招き、新鮮な海の幸を販売してもらっている。どちらも中学生の頑張りもあり好評で品物も完売状態である。交流も4年目にしてすっかり定着し段取りも良くなつた。仮設住宅の方々とも親戚づきあいでもしているかのようにお互い顔見知りになり、気軽にあいさつを交わすようになった。</p> <p>交流を通して、少人数だが学年ごとに役割を決め活動してくれた中学生の団結力には感心させられた。この経験は、これから的人生に大きな財産となることは間違いない。</p>									
課 題 等	仮設住宅に入居している方々がそれぞれ家を建て、自分の家に住めるようになってきており、仮設住宅自体無くなってしまうようだ。このことにより今までと同じような交流はできなくなり、今後も交流活動を継続していくためには、中学校、公民館、支所、地域の方々が連携し、何ができるのか方策を見い出していかなければならない。								
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校間の交流にとどまらず、社会教育機関である公民館が関わっているところ、南三陸町の仮設住宅の住民と、南外地区の住民の間の交流となっているところはとても興味深い。物産交流のように、経済面での交流がより発展していくことも期待したい。仮設住宅が解消されていく中では、南三陸町の行政や自治会、公民館との交流関係を作っていくことが重要である。 ◇ 大仙市は2011年の大震災による甚大な被害にあった岩手県海岸部に対し、県内市町村として他に先駆けた救助活動を行いました。3月、避難者サポートセンターを設置し、避難者の受け入れなどを開始、4月には遠野市に「遠野だいせん応援ハウス」を設置し、全国でも例を見ない被災地支援を行っています。 <p>また、2012年4月には県内で最初に宮古市のガレキ受け入れを開始するなど、市民が一丸となって被災地への多様な支援を継続してきました。市の積極的被災地支援策の一環として、市内各小・中学校でも様々な交流事業が行われて現在も続いている。大仙市が他に誇れる被災地支援策と考えられます。南外地域住民、中学生、教職員、市職員が一体となった南三陸町との交流事業は、人的な交流のみならず物産交流にまで幅を広げています。被災地の皆さんのが喜びは、大仙市民の喜びにもつながります。交流も4年目に入ったが、今後は内容や形が変わっても継続した交流が望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 優れた復興支援教育の実践に、頭の下がる思いである。一方的な善意の提供ではなく、被災地の皆さんのが求めているものを感じ取り、それを活動化し、更には活動の主体となっている中学生の成長にも意を用いてくださっている。実施には、多くの労力と困難が伴っているであろうと推察する。今後、更に多くの課題があるとも思われるが、参加する中学生の心の成長は、計り知れない程大きいものがあることを励みに、支援不要と判断されるときまで継続をお願いしたい。 								
有識者の 意見・評価									

事務事業の点検・評価表

番号	10	分野	生涯学習	担当課	仙北公民館												
事業名	子ども書道教室																
事業の目的	異学年の児童生徒が一緒に毛筆の初步から学び、文字を正しく整えて表現する力をつける。また、日本の文化である書道を継承しつつ、望ましい生活態度を身につけることを目的とする。																
事業の実施状況	事業費	45千円															
	<p>①対象者 仙北地域の小学生・中学生 ②開催日 5月～3月の土曜日(月2回程度) ③開催場所 ふれあい文化センター ④事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに小学校・中学校へ通知を配布し、受講生を募集 ・定員は40人で2班に分けて実施 (1班:13:30～14:20 2班:14:30～15:20) ・「書友社」(秋田市)のお手本で練習。講師の指導を受けながら、毎月作品を「書友社」に送付し、審査を受ける。 ・講師 竹村天祐氏(大曲高校教師 芸術科書道担当：仙北地域在住) <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">受講者数</th> <th style="width: 30%;">開催日数</th> <th style="width: 30%;">受講者延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度 43人(小40・中3)</td> <td>13回</td> <td>405人</td> </tr> <tr> <td>平成27年度 41人(小40・中1)</td> <td>12回</td> <td>402人</td> </tr> <tr> <td>平成28年度 41人(小41・中0)</td> <td>15回</td> <td>435人</td> </tr> </tbody> </table>					受講者数	開催日数	受講者延べ人数	平成26年度 43人(小40・中3)	13回	405人	平成27年度 41人(小40・中1)	12回	402人	平成28年度 41人(小41・中0)	15回	435人
受講者数	開催日数	受講者延べ人数															
平成26年度 43人(小40・中3)	13回	405人															
平成27年度 41人(小40・中1)	12回	402人															
平成28年度 41人(小41・中0)	15回	435人															
自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>「子ども書道教室」は合併前からずっと続けて実施しており、毎年定員に達している人気のある事業の一つである。 作品を毎月「書友社」に送付し審査を受けることで、級位や段位が上がっていくので、子どもたちは書の上達を実感でき、意欲向上にもつながっている。 また、学年の異なる子どもたちが一緒に練習することで、他の学年の児童との交流もでき、集団行動での規律や、最後まで続けることの大切さなども身に付けることができた。 受講している子どもたちの作品はその都度、ふれあい文化センターの展示ホールに掲示し、1年間の頑張りがわかるようになっている。保護者からも子どもたちの成長が一目でわかり大変喜ばれている。今後も継続事業として取組でいきたい。</p>																
課題等	ふれあい文化センターはイベントが多いため、講師と会場の都合により予定の18回を実施することはなかなか困難な状況にあるが、できるだけ多くの回数を実施できるように努める。																
外部評価 有識者の意見・評価	<p><input type="radio"/> 伝統を引き継いで継続して取り組んでいただきたい。</p> <p><input type="radio"/> 合併前から続けているが、毎年募集定員に達する人気の教室となっています。書道を通して小中生が同じ目的に向って練習に励むことにより、上達する喜びや集団行動での規律まで学ぶことでしょう。講師は地元在住の方で、ボランティア活動として引き受けおられると思います。保護者からも喜ばれているなど、今後も継続事業として取り組んでもらいたい。</p> <p><input type="radio"/> 単に子どもの書道教室を開催するだけでなく、級位や段位への挑戦、上達が見えるような掲示等、子どもたちの意欲を高める工夫が素晴らしい。そのことが、毎年定員に達して長年継続できている要因であろうと思われる。活動に参加する者の意欲を高めることができるように配慮されている点、他事業実施の際にも大いに参考になるものである。中学生になると、部活動加入等により書道教室への参加がほぼ皆無になっていることが、残念である。公民館に育ててもらったとの思いは、地域愛に直結する。部活動が休みの第3日曜日の開催など、不可能であろうか。</p>																

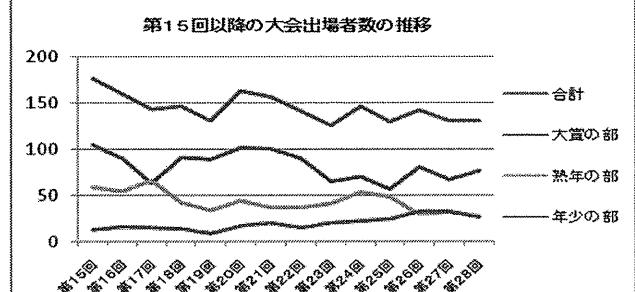
事務事業の点検・評価表

番号	11	分野	生涯学習	担当課	太田公民館
事業名	太田地域家庭教育学級				
事業の目的	<p>近年、家庭を取り巻く様々な環境が、子どもの健全な発達にとって好ましいものばかりとは言えなくなり、家庭教育はますます重要になってきている。そこで、親子の絆を深め、心身ともに健やかで心豊かな子どもを育てるために、親やその家族を対象に子育てに関する学習機会を提供し、家庭の教育力を向上させることを目的とする。</p>				
事業の実施状況	事業費	25千円			
	<p>認定こども園おおたわんぱくランドの保育参観日に合わせて、保護者等を対象に子育てに関する講話等を次のとおり年3回実施した。</p> <p>1回目　日時 4月23日(土) 10:00～ 内容 講話:演題『子どもたちに「生きる力」「自立する力」を育むために！』 講師 社会福祉法人大空大仙 理事長 三浦憲一</p> <p>2回目　日時 7月6日(水) 15:15～ 内容 親子で音楽遊び 講師 菅沼理子</p> <p>3回目　日時 2月4日(土) 10:10～ 内容 講話:演題『自律へ導く歯と口の健康つくり～家庭でできること、大人がすること～』 講師 歯科衛生士 中川佳子</p> <p>【過去3か年の実績】</p> <p>平成26年度 開催回数 4回 参加者数 379人 平成27年度 開催回数 4回 参加者数 530人 平成28年度 開催回数 3回 参加者数 296人</p>				
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかつた		
	<p>1回目は『子どもたちに「生きる力」「自立する力」を育むために！』をテーマに、親の役割、家庭・地域・学校との連携等についてお話があり、大変参考になる内容であった。</p> <p>2回目は『親子で音楽遊び』という内容で、親子一緒に音楽に合わせて体を動かし、楽しくコミュニケーションを図ることができた。</p> <p>3回目は『自律へ導く歯と口の健康つくり』をテーマに歯科衛生士から講話をいただき、子どもの歯の健康は大人のサポートが重要であることを、再認識する良い機会となった。</p> <p>事業内容については、おおたわんぱくランドと調整を図りながら、日時、講師等を決めて実施しており、日程も土曜日の開催日を取り入れるなどし、できるだけ多くの保護者が参加できるよう配慮しながら行うことができた。</p>				
課題等	<p>より良い事業内容にするためには、講師の選定が非常に重要である。そのためには、認定こども園おおたわんぱくランドと連携を図り早めに日程を調整し、他地域の公民館や県の関係機関と情報を共有しながら、予算の範囲内で最適な講師を選定する必要がある。</p>				
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定こども園おおたわんぱくランドとの連携で行われているものであり、ぜひ発展させていただきたい。保護者にとって魅力的であるとともに、有益、有意義なテーマで実施できるよう、連絡調整を密接に行っていただきたい。 ◇ 零歳児から就学前までの児童を持つ親とその家族を対象に開催される家庭教育学級は、合併前から続いている長寿命学級です。年3回開催されているが、うち2回は講演・講話で、1回は実技指導を取り入れたものになっています。この学級(講座)は心身ともに健やかで心豊かな子供を育てることを目的としていますが、健康づくりの関係からも市職員の保健師又は看護師と連携を組むなど、共通する分野は共同で進めてもいいのではないでしょうか。 □ 事業の目的を達するために、講師の確保や発掘に難儀していることが、他課所の報告にもあった。まして、年3～4回の実施となると、関係各位の難儀さは想像に難くない。講師選定に係る情報収集の上では、同業種からの情報には限度がある。こども園保護者はもとより、農業関係、商工関係、マスコミ関係等にネットワークを広げていただきたい。およそ教育とは関係なさそうな方から、深みのある有意義な話を聞くことができるが少なくない。 				

事務事業の点検・評価表

番号	12	分野	生涯学習	担当課	総合図書館				
事業名	「だいせん読書の日」における読書活動の推進事業								
事業の目的	平成27年度に策定した「第2次大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」において制定した「だいせん読書の日」における読書活動を推進し、家族や地域、社会が一体となった読書活動を行い、子どもが自立した読書ができるようになり、自らが次の世代の読書の支援者となって、読書の喜びを伝えていくことを目的とする。								
事業の実施状況	事業費	265千円							
	<p>○ 「だいせん読書の日」における読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第2次親と子の夢を育む読書活動推進計画」において、11月第1木曜日を「だいせん読書の日」に制定。各図書館では「だいせん読書の日」及び「読書週間」に合わせ、多様なイベントを開催した。 【28年度全館開催イベント・展示数】 イベント数(16)、展示数(7) 【延べ参加者数】 7,474人(47日間) ・大曲図書館ではボランティアや地域の方々の協力の下、「気軽にぶらりと来ていただけるライブラリー」を目指して「来ぶらりフェス」を27年度から開催し、来館者から好評を得ている。 【28年度内容】読み聞かせ、郷土資料公開講座、カバー掛け講座等 【来館者数】 1,451人(2日間) ・小・中学校では「大仙っ子読書の日」として浸透してきており、期間中の貸出冊数の増加につながっている。 【貸出冊数】 ()は図書館提供リスト外の貸出率 								
	<table border="1" style="margin-bottom: 5px;"> <tr> <td style="padding: 2px;">H27</td> <td style="padding: 2px;">H28</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">691冊(79.2%)</td> <td style="padding: 2px;">1459冊(94.0%)</td> </tr> </table>	H27	H28	691冊(79.2%)	1459冊(94.0%)				
H27	H28								
691冊(79.2%)	1459冊(94.0%)								
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった								
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から開始した「だいせん読書の日」における読書活動の推進事業により、各館が創意工夫を凝らした多様なイベントや展示が実施されており、来館者からも好を得ている。また、子ども読書支援センターの働きかけもあり、小・中学校にも事業の理解が浸透しつつあり、期間中の図書貸出冊数も増加している。 ・貸し出した図書において、図書館が提供したリスト以外の貸出率が高い割合となっていることから、ニーズに応じたリスト提供ができるような選書にする必要がある。 								
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「だいせん読書の日」をきっかけとして、継続して図書館に足を運び本に親しんでもらえるよう、アンケート調査の結果をもとに、ニーズに応じたイベントを企画するとともに、市全体で読書活動を推進するため、より一層PRを強化する必要がある。 ・利用者のニーズに応じたブックリストを作成するため、図書館担当者会議で情報収集を行い、利用率を高めるリストを提供し利便性の向上を図る必要がある。 								
外部評価	<p>○ だいせん読書の日の様々な活動が工夫されており、継続して取り組んでいただきたい。ブックリストについては、子ども自身からの声を反映させたり、子ども自身が選定するリスト、学校教職員が選定するリストを作ったりすることも考えられる。</p> <p>◇ 平成27年度から開始した「だいせん読書の日」は読書週間と合わさり、小・中学校にも浸透していく期間中の図書貸出冊数も増加しています。</p> <p>また、各図書館でも創意工夫を凝らしたイベントが多数開催されるなど来館者から好評を得ています。利用者ニーズに応じたイベントを企画するには図書館担当者会議にボランティアからも参加してもらうなどして、市民が気軽に立ち寄れる雰囲気を取り入れてほしい。</p>								
有識者の意見・評価	<p>□ 読書活動の推進事業の一つとして「だいせん読書の日」が定着しつつあり、嬉しく思う。期間中の小・中学校の貸出し冊数が急増していることは、定着の顕著な現れと受け止める。大曲図書館等、決して恵まれてはいない公立図書館環境ではあるが、その中にあってこそ新しいアイデアと工夫で市民の読書活動進展に尽力いただきたい。武雄市図書館が様々な物議を醸してはいるが、斬新なアイデアにより大幅集客につなげたのは事実である。広い駐車場が、県外ナンバーの車で満車であったし、館内では多くの来館者がコーヒーを飲みながら読書に没頭していた。是非別にして、アイデアが現状を変えることを痛感した。</p>								

事務事業の点検・評価表

番号	13	分野	芸術・文化	担当課	総合市民会館																																																																																																																																					
事業名	秋田おばこ節全国大会																																																																																																																																									
事業の目的	「秋田おばこ節」を後世に末永く伝承し、また、民謡を通じて豊かな文化の継承と普及、地域活性化の一端を担うことを目的に開催する。																																																																																																																																									
	事業費		2,439千円																																																																																																																																							
事業の実施状況	1 開催時期 毎年6月第1日曜日 2 開催場所 大曲市民会館 3 大会区分 大賞の部、熟年の部(開催日現在満75歳以上)、年少の部(中学生以下)																																																																																																																																									
	近年は民謡愛好者の高齢化に伴い、大会出場者も高齢化が進んでおり、第26回大会からは熟年の部を70歳以上から75歳以上に引き上げ、大賞の部と熟年の部の出場者の均衡を図っている。																																																																																																																																									
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 30%;">第1回～11回</td> <td colspan="2">高齢者の部 60歳以上</td> </tr> <tr> <td>12回～17回</td> <td colspan="2">熟年の部 65歳以上</td> </tr> <tr> <td>18回～25回</td> <td colspan="2">" 70歳以上</td> </tr> <tr> <td>26回～</td> <td colspan="2">" 75歳以上</td> </tr> </table>					第1回～11回	高齢者の部 60歳以上		12回～17回	熟年の部 65歳以上		18回～25回	" 70歳以上		26回～	" 75歳以上																																																																																																																										
	第1回～11回	高齢者の部 60歳以上																																																																																																																																								
12回～17回	熟年の部 65歳以上																																																																																																																																									
18回～25回	" 70歳以上																																																																																																																																									
26回～	" 75歳以上																																																																																																																																									
 <p>第26回以降の大会出場者数および内訳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">大賞の部</th> <th colspan="2">熟年の部</th> <th colspan="2">年少の部</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>県内</th> <th>県外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第26回</td> <td>81</td> <td></td> <td>29</td> <td></td> <td>32</td> <td></td> <td>142</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>11</td> <td>54</td> <td>16</td> <td>3</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>28</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>68</td> <td></td> <td></td> <td>31</td> <td></td> <td>32</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>13</td> <td>49</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>24</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>77</td> <td></td> <td></td> <td>27</td> <td></td> <td>26</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td>市内</td> <td>市外</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>19</td> <td>41</td> <td>17</td> <td>5</td> <td>21</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>23</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>						大賞の部		熟年の部		年少の部		合計	県内	県外	県内	県外	県内	県外	第26回	81		29		32		142		市内	市外	市内	市外	市内	市外			11	54	16	3	23	3	0								28								4	第27回	68			31		32	131		市内	市外	市内	市外	市内	市外			13	49	6	5	24	2	0								30								2	第28回	77			27		26	130		市内	市外	市内	市外	市内	市外			19	41	17	5	21	1	0								23								3
	大賞の部		熟年の部			年少の部		合計																																																																																																																																		
	県内	県外	県内	県外	県内	県外																																																																																																																																				
第26回	81		29		32		142																																																																																																																																			
	市内	市外	市内	市外	市内	市外																																																																																																																																				
	11	54	16	3	23	3	0																																																																																																																																			
							28																																																																																																																																			
							4																																																																																																																																			
第27回	68			31		32	131																																																																																																																																			
	市内	市外	市内	市外	市内	市外																																																																																																																																				
	13	49	6	5	24	2	0																																																																																																																																			
							30																																																																																																																																			
							2																																																																																																																																			
第28回	77			27		26	130																																																																																																																																			
	市内	市外	市内	市外	市内	市外																																																																																																																																				
	19	41	17	5	21	1	0																																																																																																																																			
							23																																																																																																																																			
							3																																																																																																																																			
	 <p>第15回以降の大会出場者数の推移</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">回</th> <th colspan="4">合計</th> </tr> <tr> <th>大賞の部</th> <th>熟年の部</th> <th>年少の部</th> <th>年少の部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第15回</td> <td>180</td> <td>100</td> <td>50</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>150</td> <td>80</td> <td>40</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>140</td> <td>70</td> <td>30</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>130</td> <td>60</td> <td>20</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>150</td> <td>80</td> <td>40</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>160</td> <td>90</td> <td>50</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>170</td> <td>100</td> <td>60</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>160</td> <td>90</td> <td>50</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>150</td> <td>80</td> <td>40</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>140</td> <td>70</td> <td>30</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>150</td> <td>80</td> <td>40</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>160</td> <td>90</td> <td>50</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>150</td> <td>80</td> <td>40</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>140</td> <td>70</td> <td>30</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>					回	合計				大賞の部	熟年の部	年少の部	年少の部	第15回	180	100	50	20	第16回	150	80	40	10	第17回	140	70	30	10	第18回	130	60	20	10	第19回	150	80	40	20	第20回	160	90	50	20	第21回	170	100	60	20	第22回	160	90	50	20	第23回	150	80	40	20	第24回	140	70	30	20	第25回	150	80	40	20	第26回	160	90	50	20	第27回	150	80	40	20	第28回	140	70	30	20																																																						
	回	合計																																																																																																																																								
大賞の部		熟年の部	年少の部	年少の部																																																																																																																																						
第15回	180	100	50	20																																																																																																																																						
第16回	150	80	40	10																																																																																																																																						
第17回	140	70	30	10																																																																																																																																						
第18回	130	60	20	10																																																																																																																																						
第19回	150	80	40	20																																																																																																																																						
第20回	160	90	50	20																																																																																																																																						
第21回	170	100	60	20																																																																																																																																						
第22回	160	90	50	20																																																																																																																																						
第23回	150	80	40	20																																																																																																																																						
第24回	140	70	30	20																																																																																																																																						
第25回	150	80	40	20																																																																																																																																						
第26回	160	90	50	20																																																																																																																																						
第27回	150	80	40	20																																																																																																																																						
第28回	140	70	30	20																																																																																																																																						
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																																																																																																																																						
	県内をはじめ県外からも出場者が集まる大会となっており、過去の優勝者の中には、ほかの民謡全国大会で優勝したり、プロの民謡歌手として活躍している方もおり、秋田民謡の伝承と普及に貢献している。																																																																																																																																									
課題等	大会全体の出場者、年少の部の出場者は横ばいで推移しているが、26年度からは年少の部での市内応募者がゼロの状況が続いている。このままでは「民謡王国秋田」の先祖が遺した貴重な民謡文化遺産も低落し、当市における民謡継承にも不安を感じている。 今後は学校の音楽授業などで生の民謡を聴いたり、小中学校でのクラブ活動でも地元民謡を取り上げてもらい、民謡文化にふれあう機会を増やしていくことを検討していく必要がある。																																																																																																																																									
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内からの出場者が少なく、とりわけ年少の部のゼロは残念であり、学校と連携した取組が急務である。音楽の授業、クラブ活動で確実に民謡が取り上げられるように、学校や、教育委員会の学校教育部門との連携を進めさせていただきたい。学校代表の選出、学校間対抗ができるようになれば理想である。 ◇ 今年で29回目を数える秋田おばこ節全国大会は、出場者の高齢化が進む中、26年度から年少者部門で市内からの応募者ゼロが続いている。県内で開催される民謡全国大会の中でも、本大会は古い歴史を誇っていました。将来の出場者参加を促すためにも、各民謡団体が学校に出向くなどして民謡の指導や教室の開催などできないものでしょうか。 □ 大会の継続と発展を望む。各地区での民謡コンクールが、民謡継承を支えてくれていることを強く感じている。課題欄にも記載があるように、子どもたちには、民謡の生演奏を聴かせたい。民謡をテレビやラジオあるいはCDで聴くのと生の演奏とでは、全く印象が異なる。生の演奏で、尺八・三味線・太鼓等の演奏に乗せた朗々とした歌声を聴かなければ、感動は容易に伝わらないと思う。各地区での大会決勝等を、子どもたちにも聴かせたいものである。 																																																																																																																																									

事務事業の点検・評価表

						番号	14	分野	芸術・文化	担当課	文化財保護課		
事業名	角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業												
事業の目的	東北地方を代表する雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」を活用し、角間川地域全体の歴史と交流をキーワードに、地域活性化拠点エリアを「川のまち歴史交流の杜」として整備する。 国登録有形文化財の本郷家住宅をはじめとした秀逸な近代建造物群を利活用できるように、エリア内へ案内所等の便益施設を計画的に整備し、地域文化向上と、旧池田氏庭園・角館・増田などとの広域的な文化観光交流を推進する。												
事業の実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">事業費(決算額)</td> <td style="padding: 5px; text-align: right;">36, 613千円</td> </tr> </table> <p>平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(仮称)川のまち角間川・歴史交流館整備について(基本構想) 策定 ○大仙市議会 議員説明会を開催 ○角間川エリアを地域資源として捉えた地域活性化を目指した住民活動が本格始動 <p>平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本郷家住宅 国登録有形文化財(建造物)へ登録 (平成28年11月) ○土地収用法に基づく県知事事業認定を取得 (平成29年2月) ○河港のまち角間川・歴史まちづくり事業基本計画策定 (平成29年3月) ○荒川家敷地公有化(売買取得)完了(平成29年3月) 事業費 33, 257千円 ※荒川家敷地内の建造物(主屋・内蔵・味噌蔵他)については、寄付採納を受納した。 ○広報広聴活動 大仙市文化財保護審議会の現地指導、議会常任委員会現地指導 (一社)秋田県建築士会 現地視察(建築士会大会)・意見提言の収集 角間川地区コミュニティ会議、地区任意団体(まちづくりグループ等)との座談会開催 											事業費(決算額)	36, 613千円
事業費(決算額)	36, 613千円												
自己評価	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </td><td style="width: 50%; text-align: center;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </td></tr> </table> <p>平成28年度事業については、土地収用法事業認定・事業基本計画策定・地元をはじめとした広報・広聴活動など、歴史まちづくり事業の土台づくりとなる事務事業を種々実施した。 今後、緊急的な保存整備をおおむね5年で行うとともに、まち歩き情報や地元産品等の販売機会の提供を可能とするエリア整備によって広域的な交流人口の増大を目指す。ハード面の整備が一段落した段階で、地元団体との管理運営に関する協働体制を構築していきたい。</p>											<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった
<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった												
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物群の老朽化が進んでいることから、早急に点検整備する必要がある。 ・建造物群(部材含む。)が秀逸であり、地元住民・団体から「できる限り現在の姿で保存してほしい」旨の強い要望が寄せられていることから、改修整備(案内所等の便益施設整備)に際しては、梁や柱などを残す在来木造工法を導入する方針とするが、工事実施設計・監理に高い技術と経験、また、相応の建築コストを要する。 ・上記に際し、建築基準法、消防法との適合化などの課題があるが、可能な範囲で地元要望を反映させたい。 												
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の整備・維持には多大な費用がかかることから、大仙市にとっての観光上、経済上の価値を訴えていっていただきたい。既存のものとのコラボレーションにより、他市町村、他都道府県からの誘客につなげられれば理想である。 ◇ 雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」は、国登録有形文化財の本郷家住宅をはじめ荒川家、北島家が並び、明治期の県内を代表する地主町の面影が残る街並みです。本郷家、荒川家ともに老朽化が進んでいるが、今後5年間で保存整備を行うこととなっている。改修整備は梁や柱などを残す在来工法を取り入れることから、相応の建築コストがかかると見込まれている。そのため旧池田氏庭園改修工事の例からも、長い期間をかけての改修整備はやむを得ないと思われます。大仙市の著名史跡である払田柵跡、旧池田氏庭園、檜岡城跡に新しく角間川の旧家群が加わることになります。歴史探訪ファンにとって、一度は訪れてみたい場所ではないでしょうか。歴史ボランティアガイドの育成も必要となるでしょう。この場所を有機的に結びつけた観光戦略を練り上げるべきと思われます。 □ 河港として栄えた角間川の歴史に、再び光が当たり嬉しく思う。建物群の整備、周辺環境整備等には、莫大な予算と時間あるいは労力を要することと思うが、地元住民の期待や要望に可能な限り応えていただきたい。その上で地元住民には、民謡や盆踊り等の優れた文化や、古くから伝わる地元物産の継承発展やリニューアル、更にはボランティア案内人の育成などをお願いし、公民連携によるハード・ソフト両面からの角間川活性に向け尽力いただきたい。 												

事務事業の点検・評価表

番号	15	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課	
事業名	全国500歳野球プレ大会					
事業の目的	平成29年度に本市で開催する第1回全国500歳野球大会へ向けて、平成28年度はプレ大会を開催した。「野球に燃える親父たちの甲子園」のキャッチフレーズの下、高齢者が野球を楽しみながら健康づくりを行うことをモットーに、500歳野球の全国大会を展開することで、生涯スポーツとしての野球を楽しみながら、長寿社会の形成に資する。併せて、地域知名度の向上と観光宣伝及び特産品PRを通じて地域活性化を図ることを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		3,500千円			
<p>○平成26年12月 全県500歳野球大会の役員や関係機関、出場選手などからの全国大会開催に向けて気運が高まる意見が多く寄せられるようになったことに加え、全国版のマスメディアからの取材数も増えてきていることから、市長協議・魁新報社社長協議を経て、約2年程の期間で本大会の開催につなげるよう確認する。</p> <p>○平成27年2月 徳島県阿南市(野球のまち推進課)及び徳島新聞社へのPRと普及活動を皮切りに、平成28年11月までに19会場で30団体に説明会を行うなどPRと普及活動を展開してきた。</p> <p>○平成28年7月 全国500歳野球プレ大会を開催。県外6都県から9チームを含む13チームの参加で、歓迎レセプション、物産販売、市内観光ツアー、開会アトラクションのほか、神岡小学校・平和中学校の協力の下、各チームに応援のぼり旗のプレゼントなど、大変好評を得る大会となった。</p>						
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった		
<p>参加された全てのチームにアンケート調査を実施した結果、大会運営やおもてなしについては、おおむね満足いただいたと認識している。</p> <p>特に、県外チームにはチームサポート員として、大仙市役所野球部の職員を1チームに2人配置し、宿泊施設への迎えから始まり、滞在中の様々なお世話と、試合にはベンチ入りして注意すべき点やルールの説明など、宿舎に戻るまで全てのサポートに努めていただいた。結果、試合の特別ルールに関するトラブルもなく、円滑な大会運営ができたと思う。また、事務局やサポート員個人へも感謝の手紙が届くなど、好評であったと認識している。</p> <p>小中学生が作成した各チームの応援のぼり旗も大変好評で、全てのチームがおみやげとして持ち帰っている。</p> <p>プレ大会に参加した県外チームは、今年の本大会に全チームが参加することとなったため、大会運営については成功であったと認識し、更におもてなしの充実を図る。</p>						
課題等	<p>アンケートでの不満部分については、斡旋した弁当の値段が高く(900円)レベルが低いという意見が寄せられた。今年は、第3セクター支配人連絡協議会に特産弁当3種類の開発を依頼し、価格(700円)を下げて提供する予定である。</p> <p>競技スポーツである野球を、生涯スポーツとして楽しんでいただくため、選手に随行するファミリー層へのおもてなしを充実させ、滞在期間のふれあい的なイベントの取組に努める。</p>					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 500歳野球大会を他の市町村と持ち回りではなく、大仙市で開催し続けるようにすることは一つの選択肢としていいように思う。高校野球のようなものとは違い、野球愛好、健康づくり、長寿社会のためのイベントとして位置づけられるもので、楽しみながら競い合う取組であろう。阿南市のような積極的な自治体があり、そこでも類似の取組が行われることも考えられることから、全国協議会のようなものを作って、共通のルールづくりを行うことも考えられる。いずれにしても、全国からの集客に結びつけ、地元への経済効果が大きくなるよう、旅行会社ともタイアップし、各種のツアーの一環に位置づけられればいいように思う。</p> <p>◇ 全県500歳野球大会の長い実績から、待ち望まれた全国大会がありました。平成29年度の第1回全国大会に向けての前年大会でしたが、全てのチームに対してアンケート調査を行なうなどした結果、満足いただいたところや、課題があったところが見えてきました。第1回大会では市内の中学生が入場する選手の先導役を務める他、市内全21小学校が作成した各チームのぼり旗が掲げられます。全国から32チームが出場する大会は県外選手が約400人で、うち約280人が市内に宿泊するようです。全国の選手との交流のほか、市への経済波及効果もあることでしょう。この大会が全国花火競技大会に次ぐ、大仙市の目玉行事に育つもらいたいところです。</p> <p>□ 500歳野球全国大会の開催、誠におめでとうございます。500歳野球を、「大曲の花火」に次ぐ一大イベントに成長させた、関係各位のこれまでのご努力に深甚の敬意を表したい。500歳野球の全国大会や県大会が、共にビックイベントとなり周囲の関心と注目が高まる中で、わずかな手抜かりで不評を買うこととは、極力避けたいものである。そのためには、遠慮せず周囲の協力を得ることではないかと考える。これだけの大きな行事となり、市役所職員はもとより、一般市民も喜んで協力してくれるものと思う。多くの市民の協力により、500歳野球聖地としての環境を一層充実させたい。</p>					

学識経験者の総評

佐藤修司（秋田大学教育文化学部教授）

少子高齢化、人口減少が地域に影を落としていることは否めない。学校教育も社会教育も例外ではなく、その影響が出ている。このような時代だからこそ、小さくとも輝くような街づくりのための取組が求められる。教育は未来への希望であり、地域の再生産の核になりうるものである。異世代間交流を盛んにして、地域の文化の継承・創造とともに、地域の生業（なりわい）の継承・創造に向け、全世代にわたるキャリア教育に取り組んでいただきたい。学校教育や社会教育の壁を越え、更に、各地域、各行政領域の壁を越えて、地域の維持・存続に真剣に取り組むべき段階に入っていることが痛感される。

学校教育については、今回2項目だけであった。社会教育の項目が多いことと比べて、バランスが悪いように感じる。社会教育の公民館ごとのように、学校ごとに項目を出す必要はないが、学校施設・設備の他に、徳（生活指導、児童・生徒指導）、知（学習指導）、体（体力づくり）や、経済支援（奨学金など）などの領域単位で、計4～5項目程度は、毎年度評価の対象にすべきように思える。

鈴木三郎（社会教育委員）

秋田県の人口が100万人を下回るなど、大仙市は今後も人口減少と高齢化が進むものと思われます。

こうした現状を見据え実施された大仙市教育委員会の平成28年度事業の中より、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯教育推進計画、大仙市スポーツ推進計画に基づいて実施した事業のうち、15分野の事業説明を受けました。

年々厳しくなる予算ですが、補助事業の活用、単独事業の創意工夫により効果的な教育実績をあげているなど学校教育、生涯学習全般にわたり発展が見られました。

○ 学校教育について

少子化に伴い、小・中学校の学校統合が計画的に進められてきましたが、当面の統廃合は一段落したところです。

学校は地域住民のよりどころとして長年親しまれてきた教育施設ですが、災害時の避難場所としても大きな役割を担っている施設です。

校舎・屋内運動場の耐震化、トイレの改修、災害時の避難訓練、震災被災地との交流事業などにより住民交流が図られるなどの伸展があつたと思われます。

○ 生涯学習について

市民であれば大仙市の歴史、文化、自然について知名度のある個所は即座にいくつか挙げができるでしょう。

しかし、合併10数年経った今でも自分の地域以外は案外知らないのが現状です。地域に埋もれている宝物をもっと市民に知ってもらう方法を取り入れてもらいた

いところです。

大仙市が誇る全国花火競技大会に次ぐ大会になるであろう、全国 500 歳野球大会。新しく始まる一大事業です。

この大会を進めるには多くの市民と職員の動員が欠かせません。大仙市の更なる知名度の向上と経済効果も期待できることから、関係者のご奮闘をお願いいたします。

毛利博信（元小・中学校長）

市民大学教養講座「春の花めぐりとウォーキング」事業の評価でも述べさせていただいたが、生涯学習・学校教育その他あらゆる機会を通じ、大仙市の優れた文化や豊かな自然を、オール大仙的郷土愛醸成の観点から伝えていきたいものである。

大仙市の鳥カワセミを、どれだけの大仙市民が見たことがあるだろうか。大仙市の木である欅の、県内一の大木が神岡の町の中にあることを、どれだけの市民が知っているだろうか。中世の息づかいの聞こえるような檜岡城が、素晴らしい整備されたことを、どれだけの市民が知っているだろうか。大仙市内には、国宝一つを含む国指定や国登録文化財が 10 か所にあることを、どれだけの市民が知っているだろうか。

8 市町村合併による大仙市誕生から、12 年が経過し干支も一巡りした。あらゆる機会を捉えて、特に明日の大仙を創る若い世代には、大仙市の隅々にまで豊かな文化と美しい自然が広がっていることを伝えたい。そのことで、市全体の発展を願う市民が育ち、活性を支えてくれるものと考える。

教育委員会職員各位の、一層のご活躍を期待申し上げたい。